

Abstract

CBRN テロの分析—データベースから読み解くテロの多様性—

足達 好正（陸上自衛隊 2等陸佐）

CBRN テロが米国を中心とする各国で安全保障上の脅威として注目を集め始めたのは1990年代に入ってからである。本論文は、CBRN テロの現状について、データを駆使しながら CBRN テロの多様性を明らかにすることを目的とする。

考察の結果、CBRN テロの主体は、宗教を基盤とする組織ばかりでなく、左翼、民族主義・分離主義など様々な組織であることがわかった。また軍が使用するような高度に兵器化した CBRN テロは少なく、むしろ前駆物資をそのままテロに活用するような初歩的なテロが多数を占めていることも明らかになった。また近年のテロ組織の大量殺傷性と相まって、CBRN テロも文字通り、大量殺傷を企図したテロが顕著になってきたこと、CBRN テロと言いつつも、化学テロが圧倒的に多いこと、さりとて他の生物・放射性物質・核テロの生起する可能性も決して否定できないことも認識できた。本論文を通じて、CBRN テロの有する多様な側面に光を当てることができたと言えるだろう。

『国際安全保障』第44巻第2号（2016年9月）50—68 ページ。